

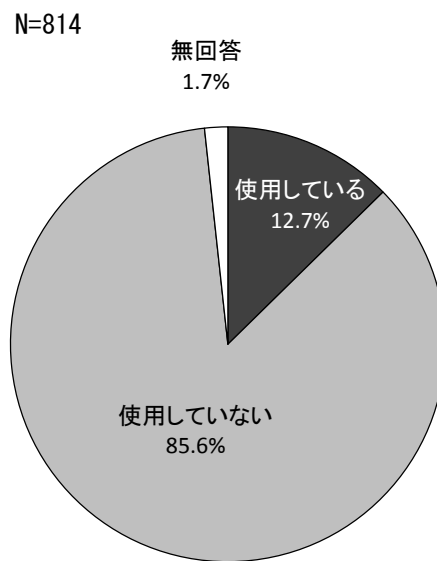
発達障害児者への支援に係る現状について

1 障害福祉サービス事業所等の現状（平成29年1～2月 アンケート調査）

※ 北九州市内の相談支援事業所、放課後等デイサービス、居宅介護、就労継続支援（A型、B型）など1,180箇所へ調査

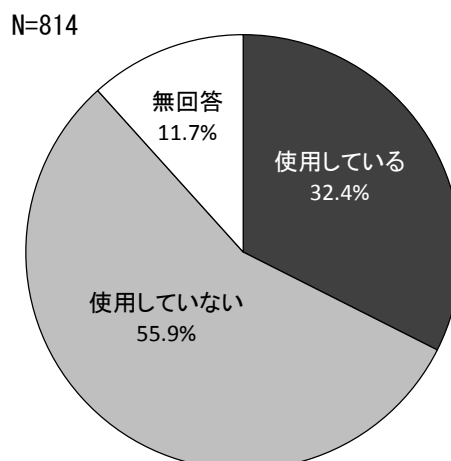
（1）アセスメントツールの使用の有無

アセスメントツールを「使用している」事業所は 12.7%となっている。

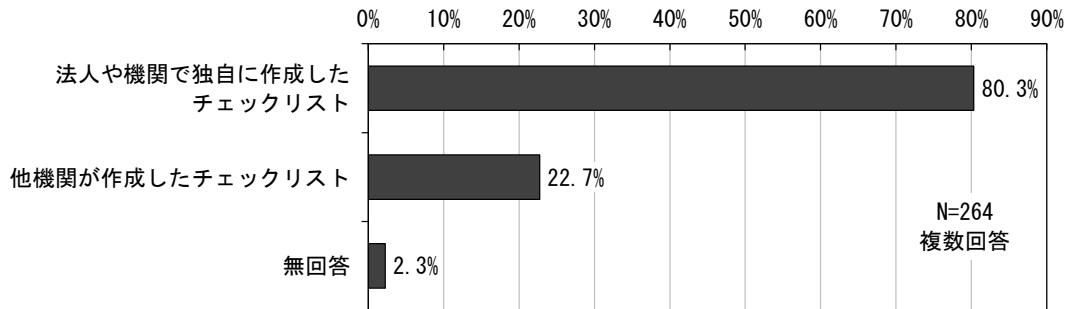


（2）スキルや能力の把握のためのチェックリストの使用

当事者のスキルや能力の把握のためにチェックリストを「使用している」事業所は、32.4%となっている。

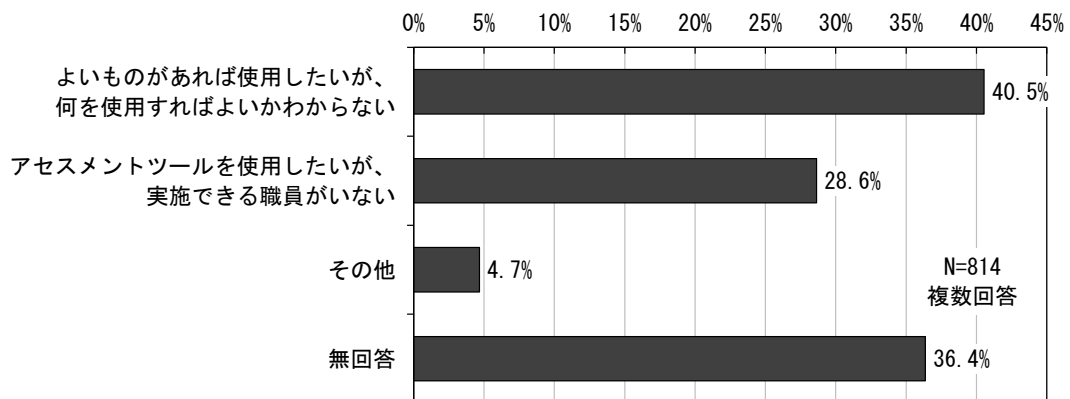


また、使用しているチェックリストについては、「法人や機関で独自に作成したチェックリスト」が 80.3%、「他機関が作成したチェックリスト」が 22.7%となっている。



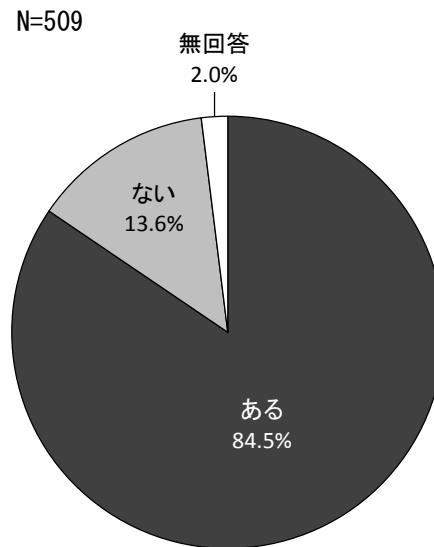
(3) 発達障害児者のアセスメントを行う際に困っていること

発達障害児者のアセスメントを行う際に困っていることについては、「よいものがあれば使用したいが、何を使用すればよいかわからない」が 40.5%、「アセスメントツールを使用したいが、実施できる職員がいない」 28.6%となっている。

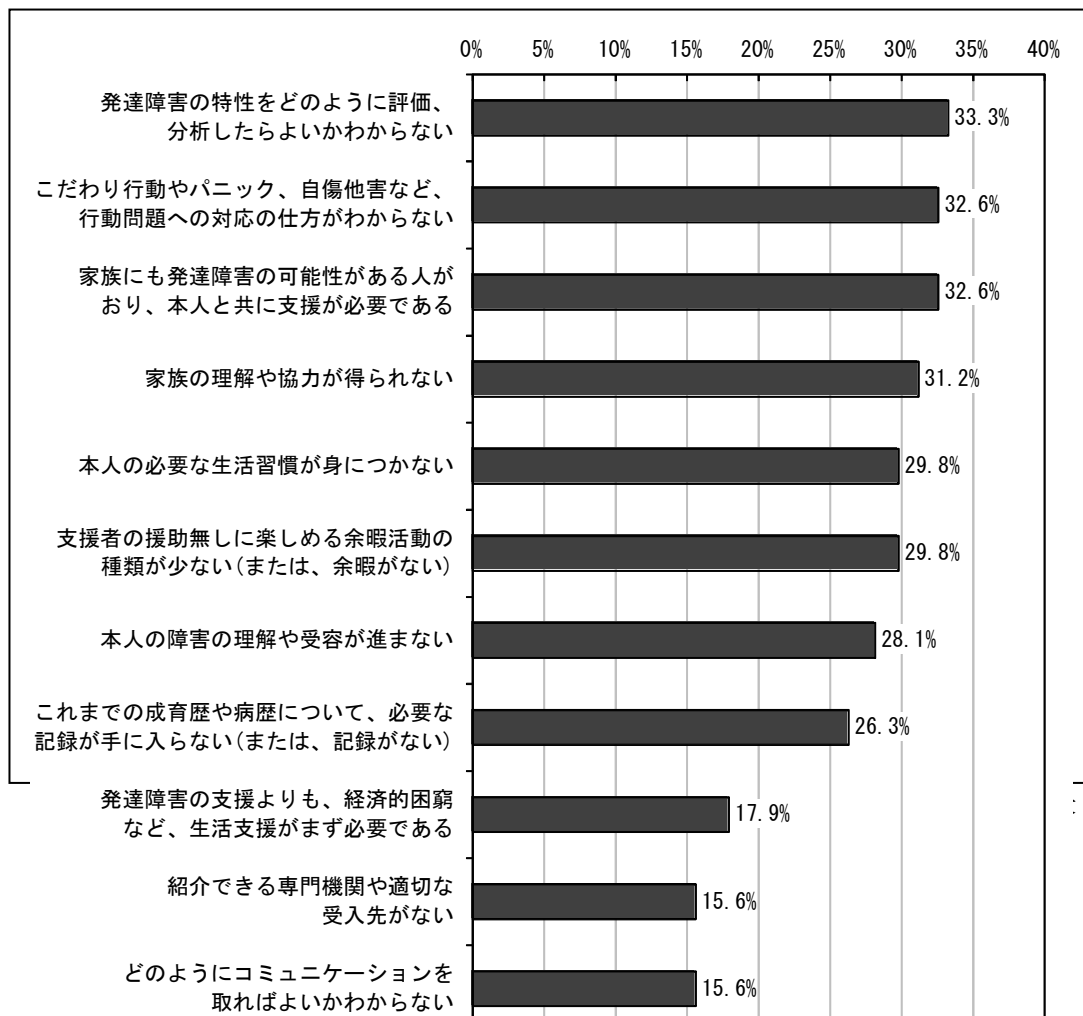


(4) 支援するうえで困っていること

発達障害児者を支援する上で困っていることがあるか尋ねたところ、「ある」が84.5%を占めた。



どのようなことで困っているか尋ねたところ、「発達障害の特性をどのように評価、分析したらよいかわからない」が33.3%で最も多く、次いで「こだわり行動やパニック、自傷他害など、行動問題への対応の仕方がわからない」、「家族にも発達障害の可能性のある人がおり、本人と共に支援が必要である」がいずれも32.6%、「家族の理解や協力が得られない」31.2%などとなっている。

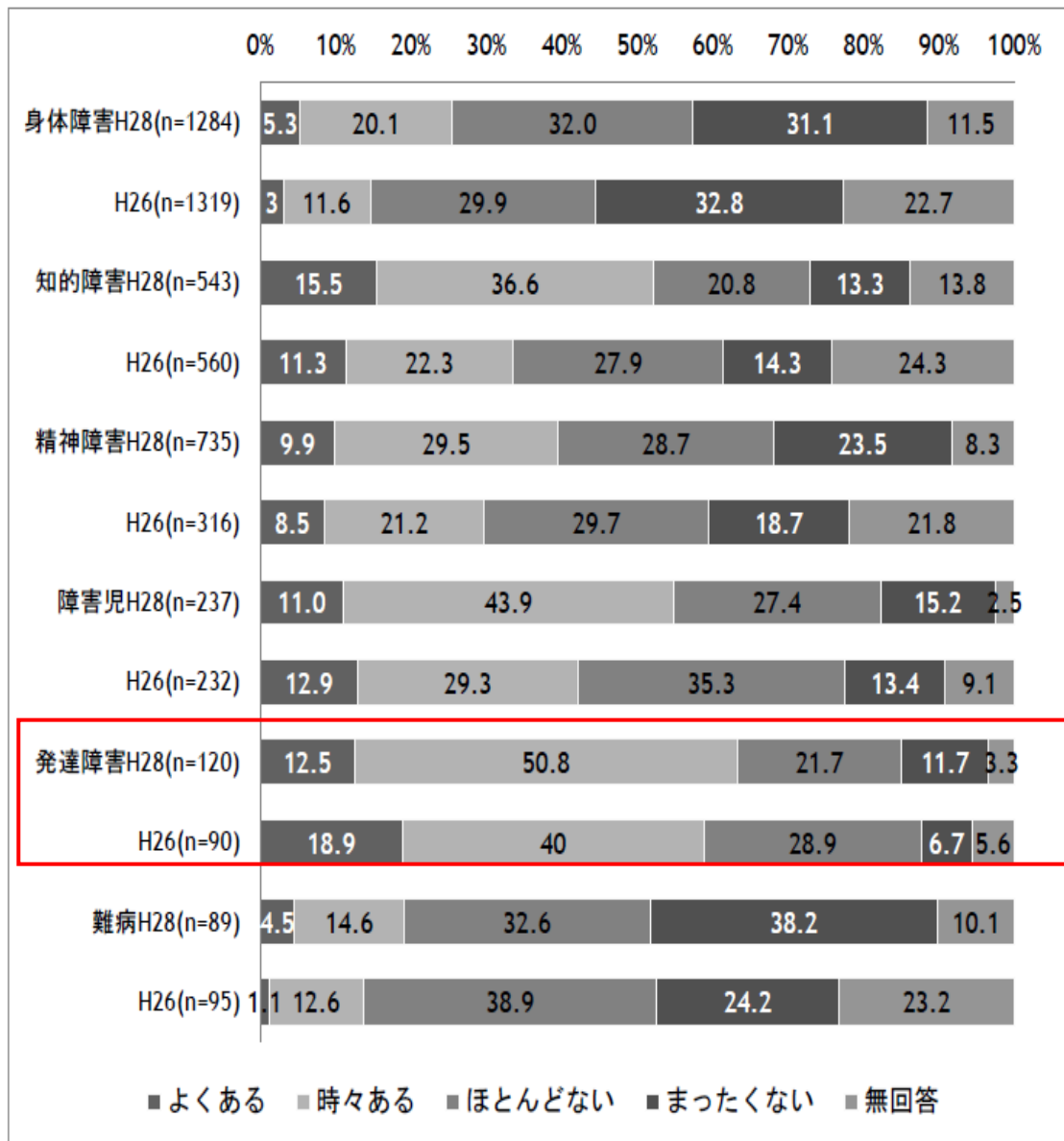


2 当事者・家族の意識について

※ 平成28年度 北九州市障害児・者等実態調査（平成29年3月）より
うち発達障害者については、主に小中学生の保護者より回答

(1) 差別を受けた経験

差別を受けた経験について、発達障害者は「よくある」「時々ある」あわせて6割以上が経験ありと回答しており、他の障害と比べて最も高い。



(2) 差別を受けた場面

差別を受けた場面について、発達障害者は「学校・仕事場」が60.5%、「外出先」が47.4%、「余暇のとき」「医療機関」がいずれも32.9%となっている。

	身体障害 (n=326)	知的障害 (n=283)	精神障害 (n=290)	障害児 (n=130)	発達障害 (n=76)	難病 (n=17)
学校・仕事場	37.4	48.8	54.8	47.7	60.5	29.4
仕事を探すとき	16.9	10.6	26.6	0.8	1.3	29.4
外出先	52.5	47.7	28.3	58.5	47.4	47.1
余暇のとき	16.6	15.2	13.1	30.8	32.9	17.6
医療機関	16.9	18.7	23.1	21.5	32.9	41.2

※ 上位回答のみ抜粋 複数回答

(3) 差別やいやな経験の内容

差別やいやな経験の内容としては、発達障害者は「見た目で見分りにくいため理解されにくい」が65.8%と最も高く、次いで「じろじろ見られる、指をさされる」が51.3%、「陰口」が31.6%となっている。

	身体障害 (n=326)	知的障害 (n=283)	精神障害 (n=290)	障害児 (n=130)	発達障害 (n=76)	難病 (n=20)
じろじろ見られる、指をさされる	43.9	50.2	26.6	57.7	51.3	35.3
友達や職場の仲間から仲間はずれ	12.6	23.3	30.7	16.2	26.3	17.6
いやな仕事をさせられたり、働いたのに給与を未払い	6.1	6.4	13.8	0.0	0.0	5.9
お金や物をとられる	3.4	10.6	10.7	0.8	0.0	0.0
いじめや暴力	12.3	28.3	25.2	14.6	23.7	5.9
陰口	24.8	31.1	45.9	24.6	31.6	17.6
性的嫌がらせ	1.5	2.8	5.9	0.0	1.3	0.0
サービスの利用を断られたり、保育所などで受け入れを拒否	6.1	9.2	4.8	20.8	21.1	5.9
見た目で見分りにくい、理解されない	40.5	42.8	60.3	54.6	65.8	64.7

※ 上位回答のみ抜粋 複数回答